J-WING
日本航空ユニオン宣伝ニュース
No 268（16－06）
2025 年 1月 31 日
Tel:03-5756-8690 URL http://www.jlu.co.jp e-mail honbu@jlu.co.jp

25 春闘「全社員アンケート」集計結果①

物価上昇を上回るベア・一時金に

今年 1 月に実施した「25 春闘全社員アンケート（回収 261 枚）」の集計結果の報告その①です。

1.全社員アンケート基礎項目

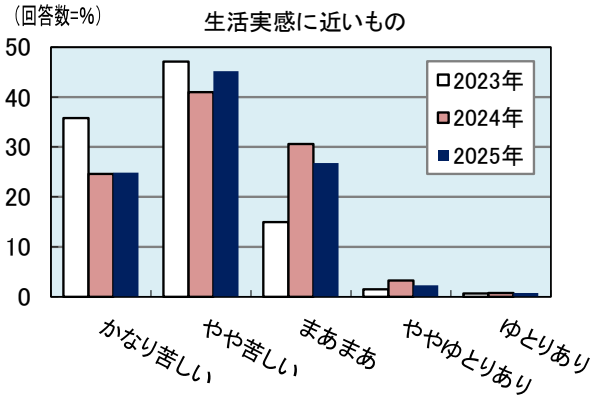
25 春闘アンケートは、JLU 組合員数以上を目指し、職場の人たちにも声をかけて集めました。組合員数は減少傾向にあるため、JLU からの回答が減るのはやむを得ないところですが、今年も組合員の約 3 割が未回答ですが、回答数は増えています。JALEC 社員からの回答をもっと伸ばしていければ、職場の声に厚みが出ます。

1.属性年代

基礎項目	運航整備	機体整備	間接部門	その他	所属全体	24全体
JLU	173	43	25	6	247	226
（%）	70.0%	17.4%	10.1%	2.4%	100.0%	100.0%
JALFIO	0	0	0	0	0	3
（%）						100.0%
JAL合計	173	43	25	6	247	229
（%）	70.0%	17.4%	10.1%	2.4%	100.0%	100.0%
JALEC	2	6	2	0	10	15
（%）	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%	100.0%	100.0%
その他	1	0	1	2	4	1
（%）	25.0%	0.0%	25.0%	50.0%	100.0%	100.0%
25全体	176	49	28	8	261	245

2.生活実態について

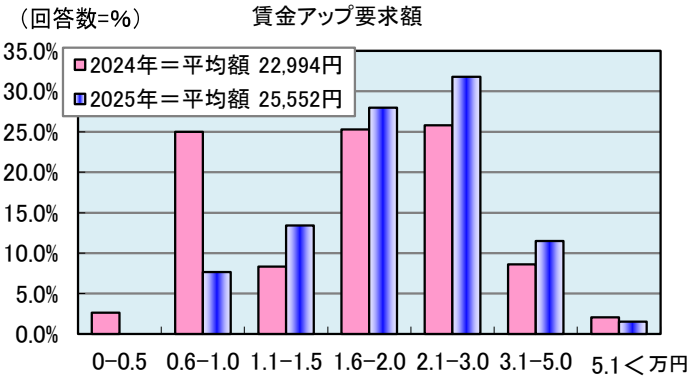
生活実感に関する設問では、「まあまあ」が減って「やや苦しい」が増えています。24 春闘で 12,000 円の賃上げはあったものの、物価高騰が続き、生活実態は苦しいという感覚になったと捉えられます。年末の一時金も昨年の 3 ヵ月から 2.5 ヵ月に下がり、年収も減ったため「まあまあ」と言える人が減ったということです。生活改善が実感できる賃上げが求められます。



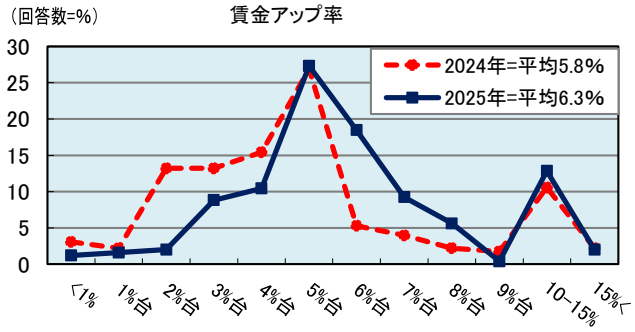
3.春闘で要求するベースアップについて

2 年続けてベースアップがあり、24 春闘では 5 桁の大幅賃上げが実現しました。25 春闘でも大手企業は 5%以上の賃上げを労使双方の目標とし、経団連も「賃上げの定着は企業の社会的責務」と述べています。物価上昇を超える賃上げで実質賃金が上がるように 25 春闘の賃上げはますます注目されています。

■ 要求額の分布を見ると、今年は 1 万円が減って 1.5 万円、2 万円、3 万円が増えています。そのため平均額も 2,500 円増加しました。12,000 円だった昨年実績と先行して報道されている他業種の要求を踏まえて、要求金額が上がっていると考えられます。



■ 要求のアップ率は平均値で 6%を超えました。昨年は 4%以下の回答もそれなりにありましたが、5%以上にシフトしています。連合の目標は「5%以上の賃上げ」ということで定昇も含めていますが、JLU では定昇後のベースアップで 6%を求めていきます。



業務企画職・整備技術職は 6%のベースアップを要求

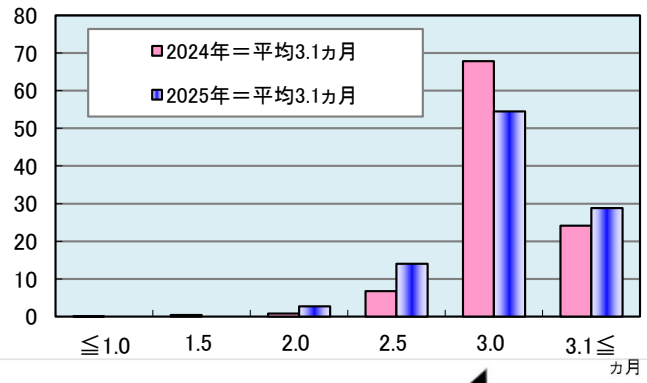
4.夏期一時金について

■回答の分布を見ると、3.0ヵ月が減少し、2.5ヵ月と3.1ヵ月以上がそれぞれ増加していますが、平均額は昨年と同じになりました。今は一度の一時金で必要な係数は3ヵ月程度ということです。また、業績連動で夏は2ヵ月と決められているため「2.5 ヵ月から始めてほしい」という気持ちが14%に表れました。

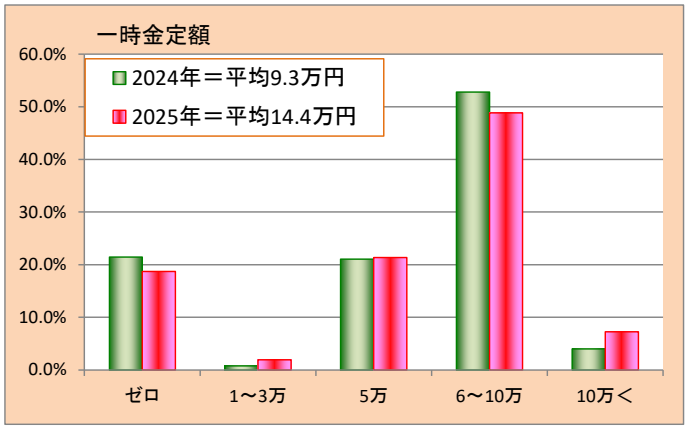
■アンケートでは定額も聞いています。今年も10 万円が半数近くになりました。平均は 3 桁の回答も反映しているため上がっていますが、特別手当として支給実績のある 10 万円が妥当と考えます。

■要求案は「夏期一時金は3.1ヵ月+10 万円」としました。24 年末で 3ヵ月は実現しているためそれ以上を目指します。今回の春闘では、日航労連で「夏と年末で 6 ヵ月以上」という統一要求を提出し、一時金の決定方法についても議論します。

（回答数=%） 一時金係数



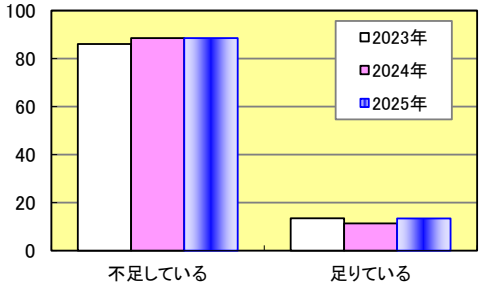
夏期一時金は
3.1ヵ月+10万円



5.職場の人員について

職場で人員が足りているかどうか聞いたところコロナ後に復便してからは大きな変化はなく今年も「不足している」が約 87%となっています。アンケートには、グラハンの人員不足を心配する声や魅力ある会社にしないと人が集まらない、人員に応じて便数や作業量を減らしてほしい、などのコメントが寄せられました。

（回答数=%） 人員不足



1. 職場の人員について

職場実態	不足	足りてる	合計
JLU	215	32	247
（%）	87.0%	13.0%	100.0%
JLFIO	0	0	0
（%）			
JALEC	7	3	10
（%）	70.0%	30.0%	100.0%
その他	4	0	4
（%）	100.0%	0.0%	100.0%
25全体	226	35	261
（%）	86.6%	13.4%	100.0%
24全体	217	28	245
（%）	88.6%	11.4%	100.0%

また、年休取得についても聞いていますが、「ほぼ取得できた」「すべて取得できた」を合わせると今回も 96%以上となりました。整備現業では年休をしっかり取らせる習慣があるものの、1 日の出面が不足し、出勤している人の負荷が高まる傾向があります。年末年始にかけて、インフルエンザやコロナの流行で年休を取らざるを得なかった人も多くいました。余裕のある人員体制にするか、出面に合わせて作業を調整できるように工夫が必要でしょう。

6. 職場実態について

一年前と比べて業務がどうなっているかの質問は昨年から「相変わらず忙しい」を加えています。全体的な傾向は昨年同様で、忙しさの感覚は改善されていないということがわかります。羽田の多忙感が整備本部の課題となっていますが、今後も対応策を見ていきます。

（回答数=%） 業務の実態

